

令和3年度（2021年度）金沢大学法科大学院 入学試験問題

【C日程】法律専門科目試験

商法 出題の意図

問題1

手続不遵守の利益相反取引（間接取引）の効力について検討を求める問題である。

甲社の債務引受は、利益相反取引に該当する（最大判昭和43年12月25日民集22巻13号3511頁）。利益相反取引を行う際には取締役会による承認決議を経なければならない（356条1項3号・365条）。この手続を経ていない利益相反取引については、取引安全のため相手方の悪意を立証した場合に、会社が初めて無効を主張することが出来る（前掲最大判昭和43年）というのが判例・通説の立場（相対的無効説）である。

問題2

合併比率の不公正が、組織再編無効原因となるのかについて検討を求める問題である。

合併の無効原因については明文の定めがないため、具体的な無効原因は、判例法理によって形成されている。裁判例（東京高判平成2年1月31日資料版商事法務77号193頁）では、株式買取請求制度を理由として、合併比率の不公正は無効原因とはならないと判示されている。しかしながら、これに対しては有力説から強い批判がある。